

## ユーザー インターフェイス論 序説

第4回

### ほんとうにそれでいいのか？

マイクロソフト株式会社  
デベロッパーマーケティング本部 デベロッパーエバンジェリスト  
西谷 亮 NISHIYA, Ryo

#### Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

#### Level



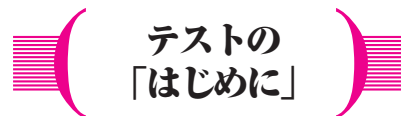
#### Samples



#### はじめに

今回は、立場によって「生産性」という言葉の意味が異なることを示しつつ、クライアントアプリケーションに求められる潜在的な目標について解説しました。クライアントアプリケーション、すなわちユーザーインターフェイスがより使いやすいものになることによって、開発者と利用者の双方がベストな関係を築いてゆけることも垣間見れたのではないのでしょうか。

さて、今回は、前回最後にご紹介したユーザビリティテストについて考えてみることにしましょう。どのようなプロセスの中で実施するか、およびその方法についてはすでに触れているので、今回は軽く触れるにとどめ、実際にマイクロソフトの社内で行っているテストと、その結果の製品への反映を見てゆくことにします。



#### テストの 「はじめに」

まず、ユーザビリティテストの意義についておさらいします。

これまで、いくつかの題材をもとにユーザーインターフェイスについて論じてきましたが、根本にある問題は何かという点と以下の言葉に集約されます。

「ほんとうにそれでいいの？」

短いわりには非常に意味深く、裏にいろいろな要素がいっぱい隠れていそうな一言です。実に、この質問に対する解を導き出してゆくために、ユーザーインターフェイスを論じているといっても過言ではありません。

開発者自身は、開発しているソフトウェアのユーザーインターフェイスに、動作検証を行なうといったことで毎日のように接し、そのために極論すれば「マニュアルなし」に操作することができます。だからこそ開発生産性が高いわけですね。しかし、提供されるソフトウェアの本質はそこにはありません。

図1：東京・調布のマイクロソフト社内にあるファシリティ会場



実際に利用すべき人が「マニュアルなし」に操作できるユーザーインターフェイスを提供できるのかにあります。実際に、何のガイドもなく操作可能な環境を、現段階のソフトウェアが提供できているとは言い難いでしょう（マイクロソフト自身もそうであろうと思います）。

これらの問題は、放置するのではなく、いくつかのテストやそこで得られたデータ、また分析を行なうことで、改善できるはずで。そのために用いられているのが“ユーザビリティテスト”なのです。これは、できる限り利用者にわかりやすく、もしくは楽しく／便利に使ってもらえるようにすることを目的として、行なうさまざまなテストです。その結果を開発のフェーズへフィードバックすることで、プロダクトはより高い価値を持つと考えられます。

## どんなテストをしているのか

さて、ここからが本題です。マイクロソフトの社内では、どのような形でユーザビリティテストを行なっているかを見てゆくことにしましょう。

### ファシリティ

本格的かつ定期的にテスト作業を行なうためには、それ

図2：テスター側の環境



相応のファシリティが必要です。マイクロソフト社内には、ユーザビリティテストを行なうための会場が特別に用意されています。図1、図2は調布にある技術センター内のテスト会場です。

テストへの協力を申し出ていただいた方（以下、被験者）は、図1に用意された部屋へ通されます。ここは、実際に操作してもらったPCが並んだ、見た目は“ちょっと広めの個人用オフィス空間”といった感じのフロアで、落ち着いた感覚でソフトウェアを使用してもらうための環境にセットされています。

一方、テスター（テストする側の担当者）は、被験者がPCを自身の直感に基づいて自由に操作できるように別の部屋（図2）に待機します。そのため、被験者が使用するPCには、操作はもちろん操作中の発言も観察できるように、カメラやマイクなども設置されています。

このような環境によって、テストが進められてゆくわけです。

### テスト内容は？

当然のことながら、実際にテストする製品やその目的によって、テストの内容や調査項目は変化します。本稿では、「HomeStyle+」というOfficeファミリに属する製品のユーザビリティテストの詳細を例に挙げ、現実にはどのようなことが行なわれてきたのかを見てゆきます。